

教科	・児童の課題 ○重点目標	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や慣用句など言語に関する理解が十分とは言えない児童が多い。</li> <li>・自分の考えを文章に表現したり、説明したりすることに苦手意識がある。</li> </ul> ○文章を理解し、自分の考えや思いをすすんで伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字5問テストを毎日実施するなど、スモールステップで取り組める機会を設定する。</li> <li>・自分の考えなどを文章に書き表す機会を設定し、タブレット端末で共有したり、児童同士で互いに伝え合ったりする機会を設ける。</li> <li>・授業の中で語彙に触れる時間を設定するとともに、学級内に本を置き、多様な表現に触れる機会を増やせるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識や計算等の技能が<b>まだ身に付いていない児童がいる。</b></li> <li>・文章題の意図をつかみ、立式することに苦手意識をもっている児童が多い。</li> </ul> ○基本的な知識や計算等の技能を確実に身に付ける。 ○問題の意図をつかみ、自分の考えを表現したり、説明したりできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>毎単元、導入の際に既習事項の復習の機会をとり、定着状況に合わせて学習を進める。</b></li> <li>・<b>文章題の際には、質問、問題解決のポイント等を色分けする作業を行い、問題の読み取りの仕方を定着させていく。</b></li> <li>・自分の考えを表現し、説明する時間を十分確保する。</li> <li>・問題解決的な学習の時には、自分の考えを具体的に説明させるとともに、子供たち同士での意見交流の場や時間を確保する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心は高いが、学習内容の理解が難しい児童が多くいる。</li> <li>・自ら問題を見出し、追及していこうとする意欲が低い児童がいる。</li> </ul> ○日常生活の中から学習課題に結び付け、基礎基本的な知識・技能を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリルパークを活用し、学習の振り返りや単元のまとめを行い、学習内容の定着を確認する。</li> <li>・児童が自ら問題意識をもてるよう、単元の導入を工夫し、興味関心を高める。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から必要な情報を読み取ったり、学習問題に対する考察をしたりする力が十分とは言えない。</li> <li>・重要語句の理解や基本的な知識の定着が不十分である。</li> </ul> ○資料から必要な情報を読み取ったり、他の情報と比較したりして考える力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の見方や考察する際の視点を明確にし、学級全体で共有しながら授業を進める。</li> <li>・ドリルパークを活用して学習単元のまとめや振り返りを行い、定着を図る。</li> <li>・ペアや小グループでの話し合いを中心とした授業展開を工夫し、対話的な学びを取り入れる。また、ICT 機器を活用し、物事を多面的に捉えられるような機会を設定する。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいリズムで演奏する能力が不十分である。</li> <li>・合奏では、拍に合わせて演奏することが苦手な児童が多く、自分のペースで演奏してしまう。</li> </ul> ○拍に合わせてたり正しいリズムで演奏したりする能力を身に付けさせることを重点目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム奏や階名唱を取り入れ、音符や休符の長さへの理解を深める。また、リズムの数え方の指導も行う。</li> <li>・拍に合わせて演奏できるようになるために、メトロノームを使って合わせて演奏したり、拍を数えながら演奏したりする。</li> </ul>

図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 抽象的な表現に苦手意識がある児童がいる。</li> <li>• 失敗を恐れ、力いっぱい体全体で表現することを躊躇する児童が見られる。</li> </ul> <p>○多様な表現方法に触れ、試行錯誤する時間を通して創造的に作ったり表したりする力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単元の導入で作品例や材料の扱いに触れ、イメージを具体的にもてるようにする。</li> <li>• 作品鑑賞の時間を設定し、様々な表現方法に触れることで自分の見方や感じ方を広げる機会を設ける。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 積極的に運動に取り組む児童は多いが、運動のポイントを意識したり、自己の動きを確認しながら取り組む姿はあまり見られない。</li> </ul> <p>○端末の利活用や友達との協働的な学びを通して、運動の特性に触れさせ、楽しさを味わわせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 掲示物やワークシート、映像などを活用して運動のポイントを視覚的にとらえやすくするとともに自己の取り組みを振り返る習慣を付けさせる。</li> <li>• 教え合いやグループ学習の場面を設定し、動きのよさや工夫を共有したり、改善点などを伝え合ったりする活動を取り入れる。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 裁縫の技能について個人差が大きく、定着が不十分である。</li> <li>• 調理に関しては、大半の児童が家庭で経験しており、手際よく進めることができるが、そうでない児童は極端にできない。</li> </ul> <p>○基礎的な知識や技能を身に付け、普段の生活において主体的に関わるとともにそれらを生かし、生活を豊かにできるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 児童が意欲をもって取り組めるような場を設定したり、ICT 機器を活用して実際の動きを確認できるようにしたりし、基本的な技能が確実に身に付けられるようにする。</li> <li>• 他の教員や保護者の協力も得ながら、安全面に留意して、技能の習得が円滑に進むようにする。</li> </ul>

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。